

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

- | | | |
|----|----------------|--------|
| 1. | 学校教育学部・学校教育研究科 | 研究 1-1 |
| 2. | 連合学校教育学研究科 | 研究 2-1 |

学校教育学部・学校教育研究科

I	研究水準		研究 1-2
II	質の向上度		研究 1-3

Ⅰ 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、平成 18 年度から研究活性化を目指し、教育組織とは別に 5 つの学系からなる研究組織を構成している。科学研究費補助金の採択、奨学寄附金の受け入れ、共同研究・受託研究の受入れは、相当数ある。研究資金の獲得状況については、平成 19 年度における科学研究費補助金の採択件数は 14 件、採択金額は 3,231 万円となっていることは、相応の成果である。

以上の点について、学校教育学部・学校教育研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、学校教育学部・学校教育研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

2. 研究成果の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学校教育学部・学校教育研究科において、教育・心理、特別支援教育をはじめ、人文・社会、自然さらに保健・体育、芸術の各分野で相応の優れた成果を上げている。学術面では、学術論文等に関して優れた水準のものが少なからず認められることについては、高く評価できる。社会、経済、文化面では、人形演劇における日米共同の創作活動、音楽に関する優れた啓発活動、授業改善を目指した執筆等をはじめとして、多くの研究成果が社会に有益な影響を与えていることなどは、相応の成果である。

以上の点について、学校教育学部・学校教育研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、学校教育学部・学校教育研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、判定を以下のとおり変更し、第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

[判定]

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学校教育学部・学校教育研究科においては、各分野における研究が総合的に学校教育に媒介されることが求められるが、ナノサイエンス分野では黒鉛からアモルファスダイヤモンドを作ることによって世界で初めて成功した研究、芸術分野では彫刻作品、環境保健分野では生体防御機構についての研究、特別支援教育分野では予防的支援の研究等が、それぞれ定評ある賞を受け、また外国語教育分野では英語教育の研究が国際的な評価を受けるなど、各分野において研究成果が活発に生み出されている。これらは学校教育における教科内容の教育研究を先導するとともに、学校現場を取り巻く諸課題にも対応しているなどの優れた成果がある。

以上の点について、学校教育学部・学校教育研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、学校教育学部・学校教育研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

相応に改善、向上している

[判断理由]

「相応に改善、向上している」と判断された事例が 2 件であった。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年

度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第1
期中期目標期間終了時における判定として確定する。

連合学校教育学研究科

I	研究水準		研究 2-2
II	質の向上度		研究 2-3

Ⅰ 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、プロジェクト研究をはじめとして活発な研究活動をしていることが窺え、学術論文等に関して優れた水準のものが少なからず認められる。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金が平成 19 年度において採択件数が 319 件、採択金額は約 5 億 2,456 万円となっていることなどは、相応の成果である。

以上の点について、連合学校教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、連合学校教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

2. 研究成果の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、連合学校教育学研究科において、教育・心理、特別支援教育をはじめ、人文・社会、自然さらに保健・体育、芸術の各分野で相応の優れた成果を上げている。学術面では、西行の和歌の世界、歴史教育内容改革研究、日本における美術教育の方法的課題等の様々な分野で高く評価され、関連学会等から受賞されるなどの優れた研究成果を上げている。社会、経済、文化面では、子どもの発達におけるテレビ・ビデオの影響に関する研究、人形演劇における日米共同の創作活動、音楽に関する優れた啓発

活動等をはじめとして、多くの研究成果が社会に有益な影響を与えていることは、相応の成果である。

以上の点について、連合学校教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、連合学校教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、判定を以下のとおり変更し、第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

[判定]

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、連合学校教育学研究科の各分野において、またその有機的繋がり of 構築において、優れた成果を上げている。当該研究科の掲げる教育実践学の構築に寄与するものとして、科学教育、教育工学、臨床心理学、精神神経科学等の分野における研究は関連の学会賞を受けるなど高く評価されている。中でも教科内容学の構築は喫緊の課題であり、研究書の被引用回数も多い。加えて、アモルファスダイヤモンドを黒鉛から作ることに世界で初めて成功したナノサイエンス分野での研究は、炭素結合の変換機構の解明に重要な知見を与えるものであり、電子・光学分野で応用可能性に道を開く画期的なものであるなどの優れた成果がある。

以上の点について、連合学校教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、連合学校教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

[判断理由]

「高い質（水準）を維持している」と判断された事例が 1 件であった。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間終了時における判定として確定する。